

M84 呼吸音聴診シミュレータ

Mr. Lung

特願 2000-332437 号

取扱説明書

 株式会社 京都科学



6. メンテナンス

- ① 聴診体の汚れは、綿の布とアルコールで拭いてください。
- ② 聴診体に天花粉を塗布すると長持ちします。
- ③ 装置に埃よけの布などを被せておくと汚れや故障の予防になります。

7. 注意事項

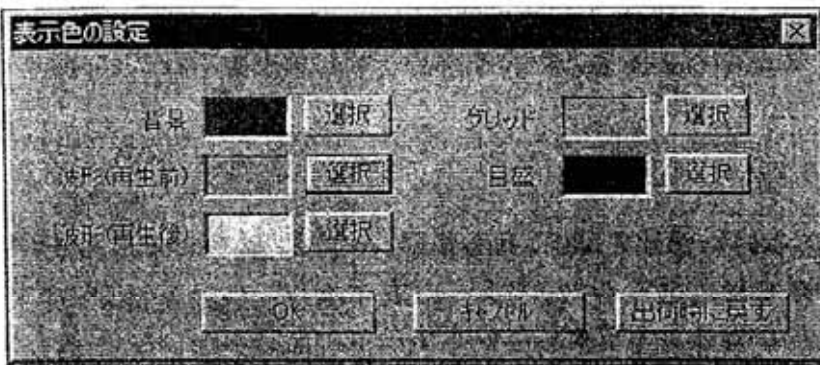
- A) 本装置をご使用あるいは保管の際は、高温多湿、直射日光を避けてください。
- B) 本装置に強い衝撃を加えないようにしてください。
- C) 人体胸郭部モデルを横にして放置しないで下さい。
- D) 人体胸郭部モデルを移動するときは、台を持たずに、聴診体の両サイドを持ってください。



- E) 聴診体は、180 度回転するように設計されています。これ以上無理に回転させないでください。
- F) 長期にわたり、ご使用にならないときは電源コンセントを抜いてください。
- G) 本装置はできるだけ静かな場所に設置してご使用ください。聴診器はノイズに対して非常に敏感です。
- H) Windows98 を終了させずにコンピュータの電源を切らないで下さい。
- I) コンピュータはコンピュータの取扱説明書の内容に従って操作してください。
- J) コンピュータに他のソフトウェアをインストールしないで下さい。誤作動の原因になる場合があります。
- K) 付属品を紛失しないよう、大切に保管ください。

④ 表示色

画面の色はお好みで変更できます。



⑤ ツールバー

画面に表示するツールバーを自由に選ぶことができます。

⑥ 解説文

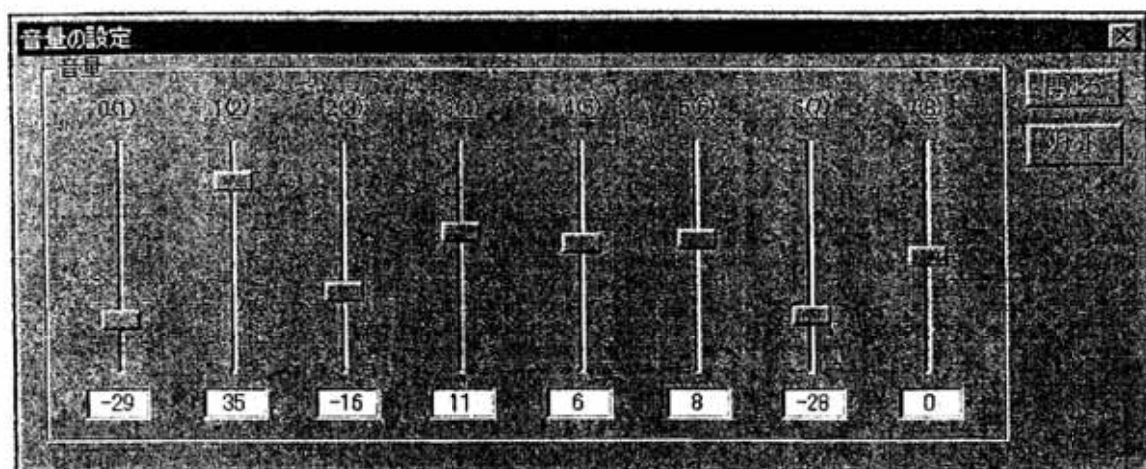
それぞれの症例の解説などを表示することができます。



* インターネットホームページを閲覧するような操作で解説画面を見ることができます。

② 音量調整

内蔵スピーカのボリュームをそれぞれ調整することができます。

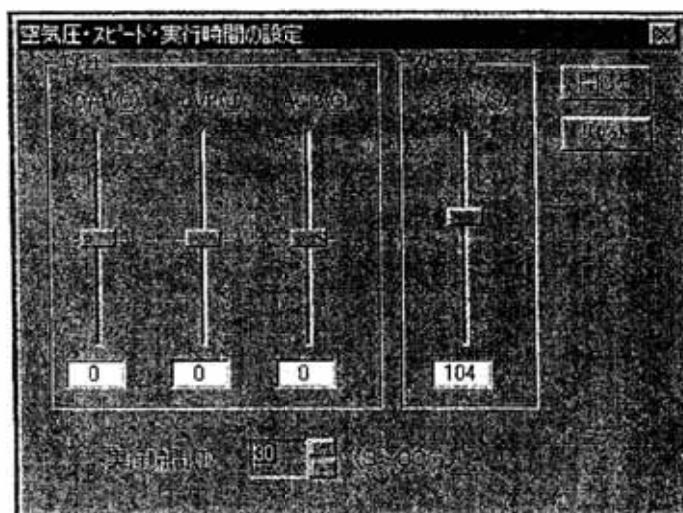


* 通常は全て0でを使用することをお勧めします。“リセット” ボタンをクリックすると全て0になります。

* フェーダの番号（括弧内の番号はプログラム管理用）はスピーカ番号を表します。

③ スピードと時間の調整

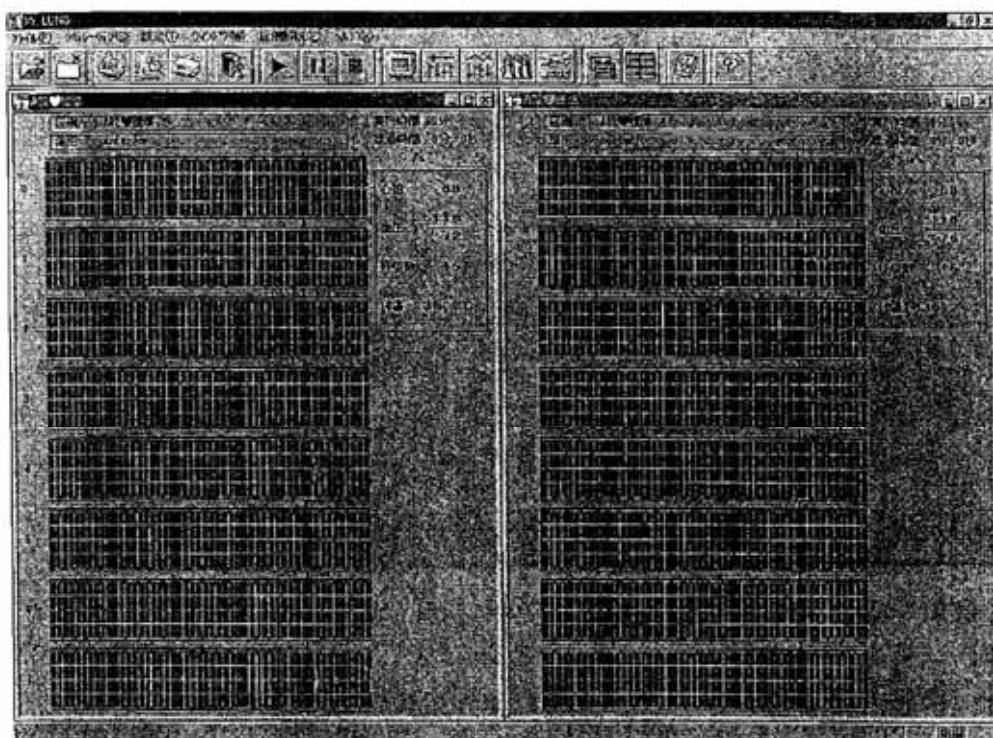
シミュレーションのスピード（80-120%）と時間（3-30 分）を調節することができます。



* スピードを調整すると聴診する音の周波数に影響します。スピードを速くするほど、同じように聴診する音が高くなります。

* エア圧は使用しません。

5. シミュレーションの設定



① 画面に表示する項目を変更します。



A) “その他”を選択すると、画面表示を自由に変更することができます。

B) ファンクションキー F1～F5 で、シミュレーション中でも画面表示を変更することができます。

F1: すべてのエリアの音声図

F2: 右肺の音声図

F3: 左肺の音声図

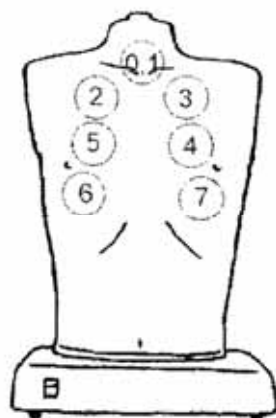
F4: 表示なし

F5: その他

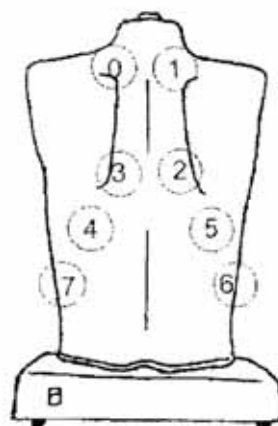
4. 聴診部位

聴診体の 15 基の内臓スピーカ周辺においてそれぞれの症例の肺音を聴診することができます。また、画面にはそれぞれのスピーカの音声波形図が表示されます。音声波形図の左に表示される番号はスピーカ番号です。

(1) 胸郭前面



(2) 背部



* 胸郭前面と背部から、同時に聴診することはできません。

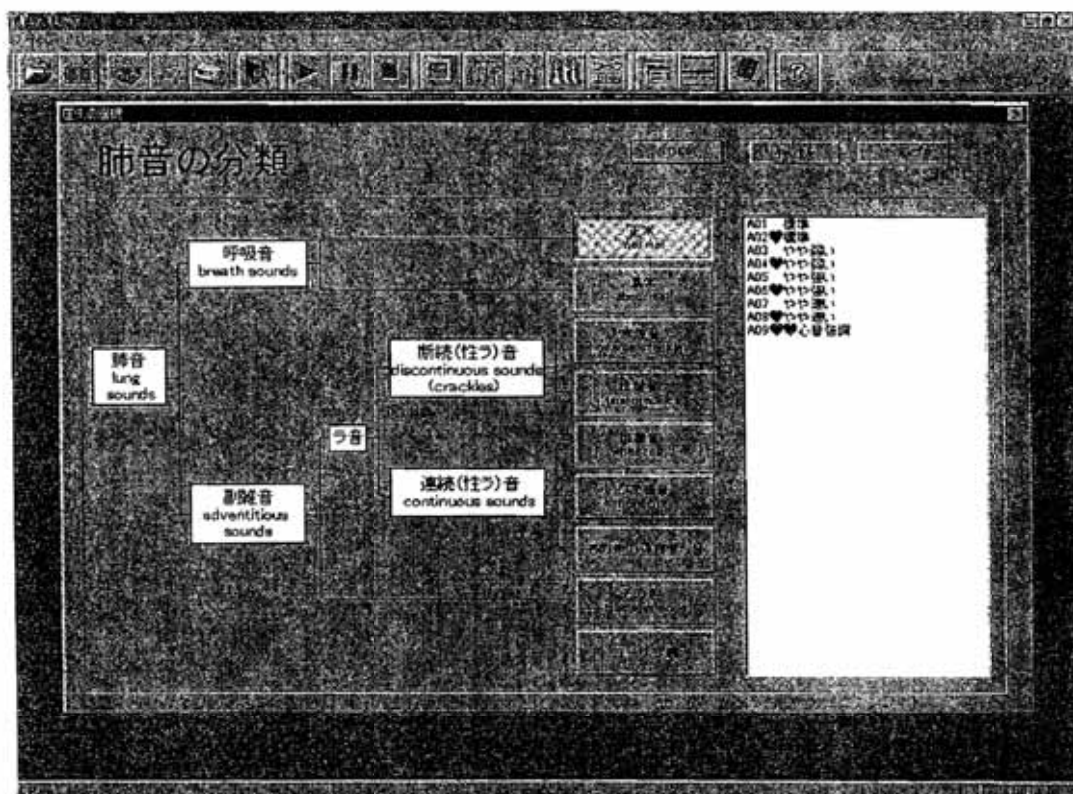
- ⑧ 聴診体前面での聴診のあと、図の→の方向、反時計回りに聴診体を回転させ背面を聴診します。前面に戻るときは時計回りに回転させます。



- ⑨  “開く” ボタンをクリックすると別の症例を選択できます。以下は同様の操作です。
- ⑩  “終了” ボタンをクリックすると「終了しますか？」と画面に表示されます。“はい” をクリックすると終了します。
- ⑪ Windows98 を終了させ、コンピュータの電源を切ります。
- ⑫ 液晶ディスプレイと人体モデルの電源を切ります。

3. 操作方法

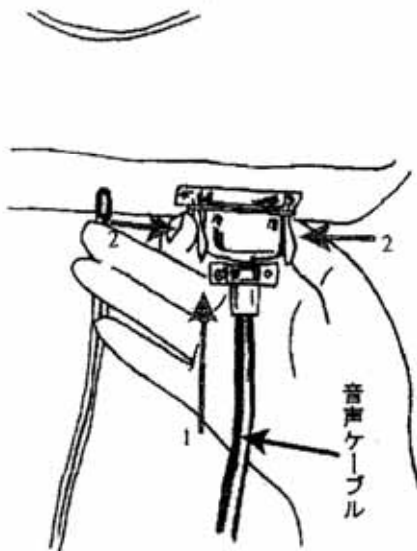
- ① 液晶ディスプレイと人体胸郭モデルの電源を入れます。
- ② コンピュータの電源を入れます。
- ③ Windows98 が起動し、画面に表示されるダイアログボックスにユーザIDを入力します。ユーザIDはご自由に入力できます。また何も入力せずにESCキーを押してもかまいません。
- ④ 肺音の分類図が表示されます。シミュレーションを行いたい分類項目ボタンをクリックします。



- ⑤ 右側のボックス内に列記されている症例の1つをクリックで選び、決定ボタンをクリックします。
- ⑥  ボタンをクリックするとその症例のシミュレーションが実行されます。
- ⑦ ご自身の聴診器を使って、人体胸郭部モデル上で肺音を聴診します。

2. 接続

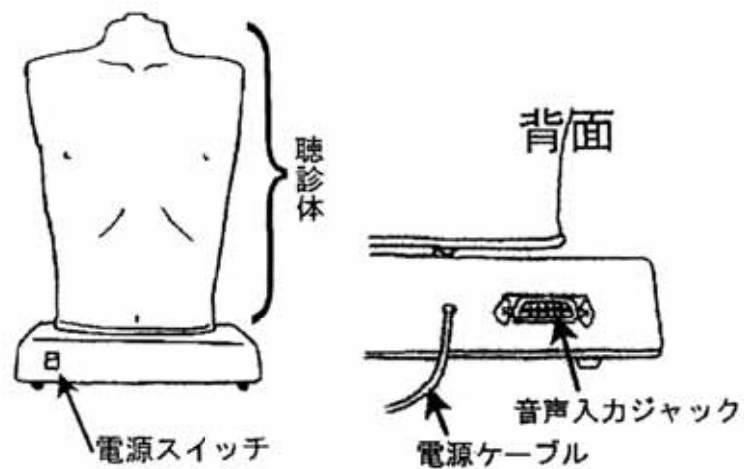
- ① コンピュータ本体にマウスとキーボードを接続します。詳しくはコンピュータの取扱説明書をご覧ください。
- ② 液晶ディスプレイとコンピュータを接続します。詳しくは液晶ディスプレイ及びコンピュータの取扱説明書をご覧ください。
- ③ 人体胸郭部モデルとコンピュータを音声ケーブルで接続します。



- ④ それぞれの電源ケーブルを電源コンセントに差し込みます。

1. 製品構成

① 人体胸郭部モデル



② 音声ケーブル

③ タワー型コンピュータ (OS.Windows98SE)

1. 12chD/A ボード (組込済み)
2. 電源ケーブル
3. マウス
4. 109 日本語キーボード
5. その他 (詳しくはコンピュータの取扱説明書をご覧ください)

④ 液晶ディスプレイ

1. 電源ケーブル
2. その他 (詳しくは液晶ディスプレイの取扱説明書をご覧ください)

⑤ バックアップディスク (呼吸音/Windows など)

*聴診器は付属しておりません。